

2006年12月18日

2002FIFA ワールドカップ™記念 日本サッカーミュージアム
第8回「アドバイザリーボード」の概要報告

2002FIFA ワールドカップ™記念 日本サッカーミュージアムのアドバイザリーボードは、2006年12月8日(金)の14時より16時まで、JFAハウス3階ラウンジにおいて、第8回目の会合を開催した。

アドバイザリーボード委員 出席者

遠藤安彦、木村剛、木元教子、民秋史也、二宮清純、平野哲行

日本サッカーミュージアム

岡野俊一郎(館長)

小野沢洋(JFAミュージアム部部长)、津内香(JFAミュージアム部)

アドバイザリーボード委員 欠席者

石井幹子、大住良之、日比野克彦、真野響子

館長挨拶

出席者に対してのお礼と、活発な意見をいただきたいとの言葉があり、座長である木村剛氏に進行をお任せする旨の挨拶があった。

事務局より、資料1にもとづき、入場者数、特別来客、運営、展示、イベント関連、パブリシティ(プロモーション展開)などについて報告を行った。

- ・ 11月7日に入場者数17万人を達成。
- ・ オシム代表監督、反町U-21代表監督らの来館があった。
- ・ 10月31日にリニューアルオープンした。リニューアル後は、それ以前の落ち込みからは脱却し、軌道に乗っている。11月は昨年と同様の入場者数を確保し、12月も同様に推移している。
- ・ 今回のリニューアルでは特に歴史的な部分を充実させた。リニューアル後、修学旅行や総合学習で訪れた学校からは「勉強になった」という感想が多く寄せられている。
- ・ 11月21日よりFIFAクラブワールドカップの企画展を実施。サッカーゴルフ、キックターゲットといった参加型のコーナーとして評判を得ているが、ボールが当たって照明機器が破損するなどの問題点もあり、今後対策を講じていきたい。
- ・ ヴァーチャルスタジアムで、クラブワールドカップ組み合わせ抽選会、なでしこリ

ーグ表彰式、職員向けD級コーチ養成講習会などが実施された。

- ・ 地下鉄線、東武線などでリニューアル窓上広告を展開。また、Number、R25 誌などにリニューアル広告を出稿。リニューアル後は、スポーツ紙への掲載、取材などでメディアへの露出が図られた。
- ・ 文京区と文京アカデミーによる文京区内 19 の美術館・博物館による「文の京ミュージアムネットワーク」に参加。ネットワークのコンセプトは「連携して文京区のミュージアムの知名度を上げること」。具体的な活動についてはまだ決まっていないが、年 1 回イベントを行う予定で、初回を来年 10 月に実施する方向で話が進んでいる。
(その他、資料 1 参照)

事務局からの報告を受け、今後の企画・運営について、以下のような質問と意見をいただいた。「 」部分は事務局よる回答)

- ・ サッカーゴルフ、キックターゲットでは、当たると効果音が出る、景品がもらえるなどより楽しめる仕掛けを作ってはどうか
あまり複雑にすると、メンテナンスにコストがかかる。また常に人員を配置することで人件費が増える可能性もあり、慎重に考えたい。しばらくは、お客様に参加してもらった上で、反応を見て、今後の参考としたい。
- ・ ボールを蹴ることで周囲のものが破損することについて、弁償の規定などはあるのか？
特にそのような決まりは設けていない。いろいろな遊び方をする人が出てくるので、対策を検討している。
- ・ 9月7日の入場者数 23 人という少なさには何か理由があるのか？
夏休み直後は、学校が始まったことと、修学旅行時期前であることから例年入場者数は少ない。約 3 年間運営してきて、そうした動向が把握できるようになってきたので、入場者数の増加に向けた方策を考える上での参考にしたいと思っている。
- ・ 「文の京ミュージアムネットワーク」で、各博物館、美術館を巡るスタンプラリーを実施してはどうか。
- ・ 入場者数が昨年度より多い、微増とはいえ「増えている」ということは評価すべきことである。一般には年々減少するところの方が多い。今後のあり方と関連して、単なる「ミュージアム」としてだけでなく、「ファンと選手の交流拠点」として考え更なる増加を図ってもらいたい。

続いて、事務局より、資料 2 に基づき、日本サッカーミュージアムの今後のあり方についてのコンセプト(案)を説明した。今後のあり方とその具体案について、以下のような意見をいただいた。

- ・ 日本サッカーの「記録」「収集・保存」の場であるとともに、「サポーターが集う場」「ナショナルチームとサポーターの交流拠点」(Jクラブのサポーターはそれぞれ拠点を持っている)として、ミュージアムがその中心的な役割を担うべきである。代表の人気に左右されることは明白であるため、代表チームが強く人気がある間は良いが、常に悪くなった時のことを念頭においておかなければ、ミュージアム自体にしわ寄せが来る。今の良い時にこそ、今後の布石を打っておかなければならない。
- ・ 「収集・保存」し、「サッカー文化を振興させる」という流れでは文脈の上で飛躍しすぎる感じがある。収集・保存機能を有し、かつ、「最新のことが分かる」「データ博物館的な機能を有する」など「現状がわかること」、「将来への提言が生まれる場所=集いの場であること、サポーターの声を直接届けることのできる場」というコンセプトがあることで初めて「未来につながる創造の場」となり得る。そうした流れにより、「日本におけるサッカー文化の振興に資する」ことが実現可能となる。
- ・ 「前向きなミュージアム」であるべき。
- ・ 「ミュージアム」、「理念」という言葉自体が権威主義的であり、事務局案にもそのような傾向がみえる。例えば、金沢 21 世紀美術館の、お客様が見たいもの常にリサーチし、新しいものをどんどん見せていくという参加交流型のあり方が参考になるのではないか。
- ・ ミュージアム=小さな政府と位置づけ、機能性を持たせるべきである。将来各 Jクラブが有するであろう各クラブミュージアムのお手本となるよう、入りやすく使い勝手の良いサロンの機能を付加していくべき。

特に「コミュニケーション」「交流」に関して以下のような具体案・具体策に関する意見をいただいた。

- ・ そのためには、ミュージアムをコミュニケーションの場ととらえ、お客様の意見を聞くツールを持つべきである。
- ・ 行くと何か良いハプニングがあり(=選手に会える、など) そうしたことが口コミで広まることが大事である。
- ・ 集いの場の具体案として、「選手の日館長」、「サッカーミュージアム特派員」の制度を設けてはどうか。選手側も社会貢献の良い機会となるはずである。
- ・ 各クラブにも、社会貢献的な使命感を持ってもらいたい。例えば、Jクラブ各地域の物産展とジョイントした企画や、チーム母体の企業のプロモーションを兼ねてはどうか。
- ・ Jリーグ・クラブの協力が得られれば、代表選手たちを巻き込むことができる。「日本のサッカーのため」を強調し、各クラブの温度差を埋める努力をしなくてはならない。
- ・ ミュージアムを会場にしてテレビ番組の公開録画行うなど、「参加型」のイベントを

実施することが重要である。

- ・ セカンドキャリアにも通じるような、引退後の選手を含めたコミュニティを作ってはどうか。選手会などにも打診が必要。

以上の意見を踏まえ、岡野館長より以下のようなまとめがあった。

ミュージアムを「小さな政府」と捉え、ミュージアムの意義を明確に提示し、JFA、Jリーグ・Jクラブとのコミュニケーションを図り、協力体制をとっていきたい。その上で、各クラブから選手、あるいは監督や審判を招き、一般のファンが聞けるような公開インタビューなどを行いたい。それらを録画・録音し「育成のアーカイブ」としてミュージアムの財産にすることもできる。そうしたことは選手、監督らチーム関係者に社会貢献を意識させ、責任感を持たせることにも有効である。特に「日本を代表している」、「クラブを代表している」という使命感を感じてもらいたい。そのためにも、Jクラブとの連携は必要である。

以上のことを総括し、ミュージアムの理念については、「記録」と「コミュニケーション」を柱とし、未来志向を織り交ぜた簡潔なものに修正することとした。

日本サッカーミュージアムの理念

「日本サッカーの軌跡／証しを収集・保存し、サポーターと選手が共感できる場を作り、サッカー文化を振興させる」

また、木村座長より、ミュージアムを運営していくに当たり、ソシオ会員による NPO 法人など、何か組織体を持つべきではないかとの提言がなされた。そのためには、メンバーが選手と接触する機会が必要である。例えば、年金制度などと絡め、選手のセカンドキャリアにも通じるような機構作りを考えてもよい。また予算面から考え、基金を設置してはどうか。そのために、記念事業のミュージアム運営補助金の残金で組織を作ることも可能である。

木村座長よりミュージアムのあり方についての提言として、今後特に以下の点を盛り込んでいきたいとのまとめがあった。

日本代表のサポーターの拠点
引退後の選手も含めたコミュニティの場
メンバーシップを持つ組織体

続いて、資料 3 に基づき、来年度予算案について事務局より説明を行った。それについて、以下のような意見をいただいた。

- ・ 将来につながる予算立てをするべきである。
- ・ 先ほど検討した「今後のあり方」で出された内容を反映して再作成してほしい。
協会への予算案の提出期限が12月22日、その後1月下旬までに修正を加えていくという予定になっており、大幅な変更は難しい。基金、組織作りについては、検討委員会を設けるなどして検討して行きたい。
- ・ ヴァーチャルスタジアムの新しいコンテンツについては、代表監督が替わったことでの変化と、将来に希望が映し出せる内容のものを期待する。

以上の討議を踏まえ、まずは、ミュージアムの理念を分かりやすく明確にまとめ、今後「将来的な運営面における組織化、予算の立案(基金の設置等を含めた将来構想)、活動の展開」に向け、できることから着手してほしいとの提言をまとめた。

最後に、次回のアドバイザリーボードの開催を2日19日(月)午後2時からとし、閉会した。

財団法人 日本サッカー協会
ミュージアム部長 小野沢洋